

ギタ〜らすだより

2025年10月25日、26日。長野県上田市にある信州国際音楽村にて製作家が企画運営するイベント【GUITAR DREAMERS of Tomorrow】を開催しました。

インターネットの向上と普及により出歩かなくても様々なアーティストの演奏が気軽に聞ける昨今、ギターを生演奏を実際に聞きに来られるお客様が年々少なくなりました。しかし、ギターも楽器の一つとして生演奏がどれだけ肌を通じて心に響くかは知っている人々には勿論、人々に感じ続けてもらいたいと願わずにはられません。

そして、製作家ならではのイベントプログラムを考えて今までとは違う角度からアコースティックギター(クラシックギター&スティール弦ギター)をお互いに学びながら世の中に広めることをスティール弦ギター製作家と手を取り合っ始めております。

イベント開催日にあたり、搬入のことも考慮して上田市近辺に前泊することを予定しておりましたが、突然の叔父さんの訃報を聞かされたことは私にとって衝撃的な瞬間でした。ギター製作家を学び私の親父などを弟子にしながらかも、楽器店、不動産など様々な事業を展開されていったという、親父(黒澤澄雄)の従兄にあたる方でした。

私は、子供の頃より会うたびに「ぶっ飛んだ凄い叔父さん」という印象が強かったのは覚えております。親父から昔の話を聞かされていましたが、叔父さんは若かりし頃に親父と茨城の海水浴場へ荷台を押しながらアイスキャンディーを売り歩いていたそうで、そこからここまで上り詰めたという人生はおこがましくも感服しております。

私の幼少期に叔父さんが会社の全社員とご家族を集めて大運動会をしていた記憶は当時の自分にとっては驚愕だったのを覚えております。どこの町の運動会かと思ってましたw。その時のスピーチの一言が今でも頭を離れません。確かこのような内容でした。

「私は社員を雇うと同時に、これだけの人を養わなければならない」

それは、子供の自分にも十分過ぎるほどの説得力のあるものでした。人を雇うというのはこういうことなのか私にとっては叔父さんという関係だったので表面的に可愛がられていた関係でしかなかったとは思いますが、クラシックギターが好きで製作を学び、海外の大手クラシックギターメーカーとビジネスパートナーになり、ゆくゆくはあの有名なスティール弦ギターメーカーの日本代理店ともなり、John WilliamsやEric Claptonなどのピックアーティストの来日にも貢献し日本中を賑わせたというのはやっぱり「ぶっ飛んで凄い」のです。

その叔父さんの旅立ちをイベント前泊前の午前中にお見送りしたのは、流石に辛いものがありました。親父があの方に製作を学んでなければ、私はギター職人にはならなかった訳です。クラシックギター製作家でありながら、スティール弦ギターと共に未来を歩もうとしているのは、叔父さんが既に道先導してくれていたのではないかと、そのような考えが車で一人長野へ向かう道中に頭を巡っておりました。そして、私が親父の後を継ぐために製作家になった自分を労い、かけてくれた言葉は忘れません。

そのような悲しみも、ギターイベントが慰めてくれた気がします。

主催者を共にしてくれた古谷武久さんをはじめ、ゲストギタリスト、スペインバル「アランフェス」、スタッフ、と皆様がこのイベントの意味を理解していただき、かけがえのない作品にイベントを仕上げてくださいました。

振り返れば、右も左も分からず考えずにできる可能性だけを追い求め、二人の主催者だけでもギクシャクしておりましたが、「立ち止まったらお互いの熱意が無駄になる」それだけは絶対にあってはならないと、突き進みました。「普通ではいけない、普通では何も変わらない、製作家が成し遂げられるイベントでありたい」そのような願いを込めた企画でした。

その熱意に、応えてくださったのは関わったすべての人々であったことを言わせてください。

面白い企画内容であると記事に取り上げてくださったギター専門誌、宣伝に協力してくださったスティール弦ギター&クラシックギターを取り扱う楽器店多数、上田市及びに上田市内の音楽施設多数、製作家コミュニティGUITAR MAKERS JAPAN、ギター教室多数にギタリスト達。そして、信州国際音楽村です。

ワークショップ・製作家トーク・楽器展示・製作工程展示・材料展示・試奏・キッズコーナー・懇親会・コンサートと楽しめるであろう内容は入れ込んでみました。

そして、2日間に渡ったイベントの最後にはすべてのお客様・ギタリスト・関係者・スタッフ・施設関係者が笑顔に包まれ、リピートを願ってくれた。このことが主催者の望んだ光景であったのだと実感しました。

お越しいただいた方々、並びにすべての関係者のみなさま、素敵な時間をありがとうございました。

